



季節の作業

三月中
四月中

育苗

○温床の準備
日増しに暖かくなり、雪もどんどんとけてくると、例年のことながら気だけあ

せて、あれこれと忙しさに追われがちなものである。やはりしっかりと計画を立てることが大切で、それに応じて早めに段取りをきめ、作業を進めて行くことが大切ではなからうか。

さて苗床の準備であるが、資材、床土の手当が満足かどうか、それによつて苗床の作り方も考えて行かねばならない。踏込みの深さは三月上旬にこしらえる場合、四〇センチくらい必要で、十日ごと遅らすに従い、六センチくらい宛減らして充分である。これはまた作物や、播床、移植床によつて多少増減すべきである。踏込材料はやはり新鮮厩肥が一番で三〇センチの厚さに踏込むために必要な厩肥の量は、八㎡(二坪)当り四六〇キになる。新鮮な稲藁を材料に使用する場合は、一〇〇キに米糠一四キ、硫酸一・五キ、等酸酵を助ける材料を添加し、水一八〇リくらいかける。発熱を均等に保つために、材料を四等分して一層々々よくならして踏込む必要がある。

発熱したら床土を入れる。床土は前年の

夏から堆積しておいたものを使うべきで、この培養土のない場合は、腐熟した堆肥を篩ふるつて、これに肥えた畑の表土を半分くらい混ぜ、過燐酸石灰と少量の硫酸、硫加を施して使用するとよい。

○播種

播種期を決めるに当つてまず定植の時期を考えなければならぬ。定植の時期は気温、地温に制限されて限界がある。従つてその限界から育苗日数をさかのぼつて播種期を決めることになる。播種期は近年、トンネルを利用することにより定植が早められるので、かなり早い時期から行われるようになつて、勢い育苗にも長時日をつける栽培もふえてきた。育苗日数は作物により、また栽培方法によつても異なるのは当然であるが、今トマトを例にとつて考えてみるに、育苗日数を長くし何度も移植した大苗は、植傷みこそ少ないが、定植後伸びがよく収量の多い苗とはいえない。むしろ育苗中によい条件(温度、光線)を与え、移植回数も一回くらいに止めた苗目数の短いすなおな苗が好成绩をあげるのである。従つて管理の間、資材の面を考えて、無理な長期育苗、即ち極端な早播はさけるべきである。札幌を中心とした定植の適期から、育苗日数、播種期を考えてみると次表の通りである。

播種する場合覆土し易いことと、発芽後

定植の適期と播種期及び育苗日数

種類	栽培法	播種期	定植期	育苗日数
トマト	露地	二月下	三月上	六〇日
トマト	無加温トンネル	二月下	三月上	七〇日
なす	露地	三月下	四月上	六〇~七〇日
なす	露地	三月下	四月上	四〇~五〇日
きゅうり	露地	三月上	四月上	五〇~六〇日
早生かんらん	露地	三月上	三月上	三〇日
はくさい	トンネル	三月上	三月上	三〇日

の間引等の管理の点から条播の方がよい。播種が終つたなら、薄く平均に覆土してたつぷり灌水して、稗ものをうすくかけて表面の乾燥するのを防ぐ。種子はウスブルン等で消毒して用いるか、立枯病防除のため、灌水の際ウスブルンを床面に撒布するのも有効である。

苗床を高温に保つと一般に発芽は早まり一斉に揃うから管理に便である。発芽最適温度は必ずしも、生育最適でないから、発芽温度と生育最適

トマト	なす	きゅうり	かんらん	はくさい
最も早く生える温度	最も早く生える温度	最も早く生える温度	最も早く生える温度	最も早く生える温度
一五~二〇	二〇~二五	二〇~二五	二〇~二五	二〇~二五
最も良く生育する温度	最も良く生育する温度	最も良く生育する温度	最も良く生育する温度	最も良く生育する温度
二〇~二五	二五~三〇	二五~三〇	二五~三〇	二五~三〇

○移植

トマト、茄子、かんらんでは本葉一〜二枚が出始めた頃、瓜類では子葉(貝割れ)が開いたら早めに移植にとりかかる。移植は苗の発育に必要な条件の悪い所からよい条件の所に移しかえて、苗の発育を図り、定植の際の植傷みを少くするために行われるものである。しかし移植により断根されるものに、五〜七日間位生育が遅延する

ので、果菜のように、なり花の分化と草丈の生育が平行しているものでは、それだけ収穫がおくれることになるから、特別でない限りは何回も行わない方が得策である。移植床の地温は前の床より高い方が、定植後の植傷みが少なくてすむ。しかし一般に踏込材料等の関係から、理想的な温度に保てぬ場合が多いので、その対策として、移植床を移植の数日前にこしらえ、陽熱で充分床土を暖めておくようにする。

移植作業は晴天無風の日を選び、なるべく早めに切上げて、障子を密閉して直射光線を充分与え、苗がしおれないで生育を続けさせることが大切である。株間は出来るだけ拡げることが大切で、最小限トマトでは九×九センチ、なすでは、九×六センチ、かんらんでは六×六センチの間の隔にする。この広さで定植前のズランを考へに入れれば、三〇日くらいの育苗は可能である。

たまねぎ・ねぎの播種

たまねぎを移植栽培する場合には苗床で育苗する。苗床は温床、冷床により三月下旬〜四月上旬に四㎡当たり六〇〜八〇キの種子を撒播か条播する。苗床にビニールトンネルを利用するのも簡単でよい。一年ねぎもたまねぎに準じて育苗する。(なかはら)